

令和二年度 国語（文学科 日本語日本文学専攻） 解答例

一 (一〇〇点)

問一 ① 誘致 ② しんぜん ③ 操作 ④ もさく ⑤ 趣旨 ⑥ どうりよう ⑦ 低迷  
⑧ 憧 ⑨ きゅうきよく ⑩ だっきやく (二〇点)

問二 ア 肯定される イ 際限がない ウ 極めて エ 一番に オ 固執する (一五点)

問三 日本がアメリカに依存する未成熟な国家であるというイメージ (八点)

問四 自分の今後のキャリアにとって有利かどうかを基準に考えるなら、勉強する対象としては、経済が停滞している日本よりも、経済が成長している中国の方が適しているから。  
(二二点)

問五 自分の子ども時代をもう一度追体験したいという願望 (八点)

問六 執着がかくも強く、ある意味でじつに不合理である (七点)

問七 彼らにとつての日本は、現実存在する外国としての日本ではなく、幼少期の記憶と結びつき、幼少期の追体験という夢をかなえてくれる、想像上にしか存在しない日本であるということ。 (一五点)

問八 日本と日本文化をより批評的な方法で考察でき、実際の日本人々、日本人々が書いてきた本が、いかに自分の人生に関係し、知的刺激を与えるものであるかに気づき、子どもから成長するというイメージが持つ歴史的起源について考え抜けるようになること。  
(一五点)

二 (六〇点)

問一 ウ 完了の助動詞「ぬ」の連体形の一部。 (六点)

問二 感情のない花が、人が見ないからといってうらみ寂しがるのも、不調和に聞こえる。(思われるも可) (一二点)

問三 感情がない物(花や風)に心があるように詠み、物言わぬ物にも物を言わせること。  
(一二点)

問四 どうして、花も、人が見ないからと言って恨んだりしないことがあるのか。 (一二点)

問五 風が吹かない 花が散らないも可 (六点)

問六 見る人もいないこの山里の花の色の美しさは、かえって(花を散らすはずの)風がそれを惜しんで吹かないようだ。また花盛りであるよ。 (一二点)

三 (四〇点)

問一 すでに ひとり (八点)

問二

てうていもうこだいじんいちんをつかはしてかうしにつかひせしむ または

てうていもうこだいじんいちんをしてかうしにつかひせしむ (一〇点)

問三

彼所<sub>レ</sub>以受<sub>レ</sub>者、安<sub>レ</sub>小国之心<sub>一</sub>。我所<sub>レ</sub>以不<sub>レ</sub>受<sub>レ</sub>者、全<sub>レ</sub>大国之体<sub>一</sub>。(一〇点)

問四

元明善が、お金を受け取った蒙古大臣に対しては、その品のなさを上手にとりつくろっ

たこと。元朝に対しては、小国のお金を拒絶して大国の面目を保ったこと。(一二点)